

未来に責任のある木村亮太が 枚方の未来のために取り組むこと

無所属 枚方市

明るい未来を創りたい 未来に責任

行財政改革

▼¥-1,465,509,000

●財政の健全化●強い組織をつくる

地域活性化

空きスペースを活用しNPO誘致で地域活性化

●空きスペース有効活用●NPO、社会起業家との連携

子育て支援

働きながら子供が育てやすい枚方

●待機児童の解消●病児保育の充実

教育の充実

社会体験から考えるチカラ

●社会に必要な能力向上●考える力を養う

市民に近い政治

情報発信と投票率の向上を目指す

●投票率の向上 ●情報を発信



きむら りょうた
木村亮太

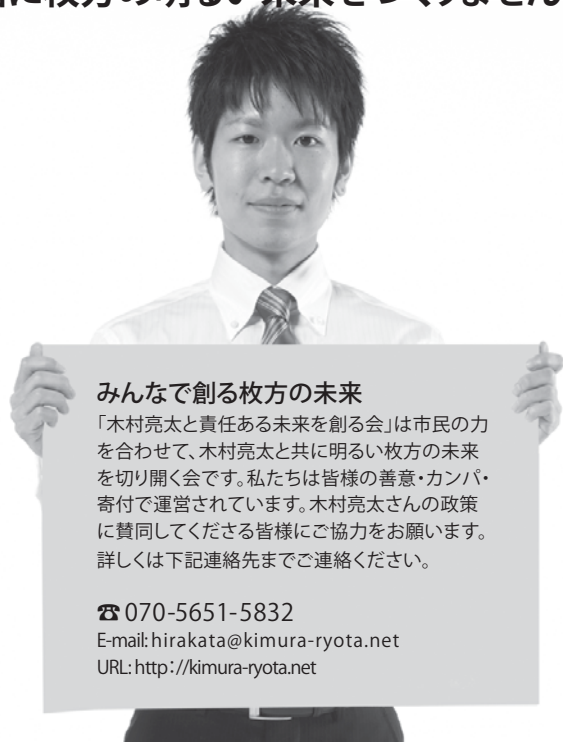
<http://kimura-ryota.net>

事務所: 〒573-0027大阪府枚方市大垣内町1-7-5

自宅: 〒573-0091大阪府枚方市菊丘町30-1

☎070-5651-5832 E-mail:hirakata@kimura-ryota.net

木村亮太と責任ある未来を創る会 一緒に枚方の明るい未来をつくりませんか？



みんなで創る枚方の未来

「木村亮太と責任ある未来を創る会」は市民の力を合わせて、木村亮太と共に明るい枚方の未来を切り開く会です。私たちは皆様の善意・カンパ・寄付で運営されています。木村亮太さんの政策に賛同して下さる皆様にご協力をお願いします。詳しくは下記連絡先までご連絡ください。

☎070-5651-5832

E-mail:hirakata@kimura-ryota.net

URL:<http://kimura-ryota.net>

1984年 4月22日生まれ

1997年 バンコク日本人学校卒業
(1991年枚方小学校入学)

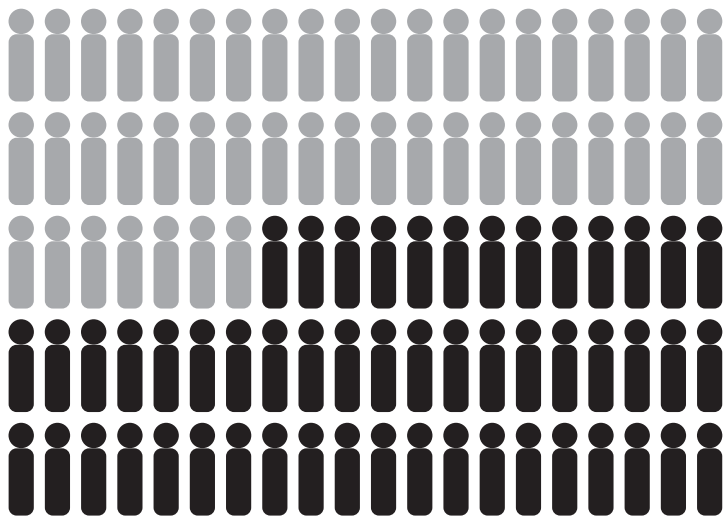
2000年 枚方中学校卒業

2003年 四條畷高校卒業

2007年 大阪大学経済学部経済経営学科卒業

2007年 化粧品を扱うベンチャー企業に入社
(2010年退社)

学生時代、政治家と学生をつなぐNPO法人ドットジェイピーで関西支部代表を務め、若年層の政治参画の促進、投票率向上などを旨とする。



2人に1人も投票に行かない枚方市民

投票率46.93% *前回の2003年市議会議員選挙の投票率

投票率が46.93%ということは、2人に1人も投票していません。枚方市民の半分にも満たない人々の民意しか、枚方市の市政には反映されていません。枚方市の年間予算約2000億円の用途を決める34人を選ぶ大事な選挙です。市民ひとりひとりが一票の責任の重さを再認識し、もっと多くの市民が市政に参加する必要があると考えています。「このままでいけない」そう思っている人は沢山いるはず。木村亮太さんは投票率の向上により、より市民に近い市政を提案します。木村亮太さんは団体や組織に属さない市民の声なき声に応えます。

「木村亮太と責任ある未来を創る会」は枚方市の未来を憂い、投票率向上運動を推進しています。より多くの市民の皆様が、政治に関心を持ち、市民に近い枚方市政を実現するため、私たちは枚方のあらゆる場所でこのチラシを配布しています。

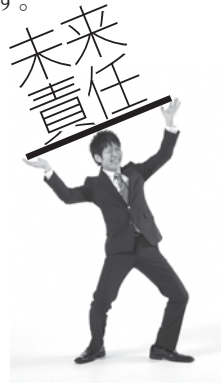
明るい未来をつくりたい。

しがらみのない政治で負担を先送りせず、未来に責任ある世代が明るい未来、明るい枚方をつくりたい。

私が大人になるにつれ、枚方市駅前の施設や枚方を代表するイベントが徐々になくなり、街としての活気が失われてきました。地域主権が進む中、地方自治体は国に頼ることなく、独自運営をしていく必要に迫られます。そういった中、何のしがらみもなく、未来に責任のある僕が枚方の明るい未来を創ります。

私が生まれ育った枚方には緑があり、江戸時代には宿場町として栄え、歴史もあるとてもいい街です。私たちが大人になるに連れて、枚方市駅前の百貨店の移転や、菊人形展の終了、花火大会の終了など、枚方らしさが失われてきてい

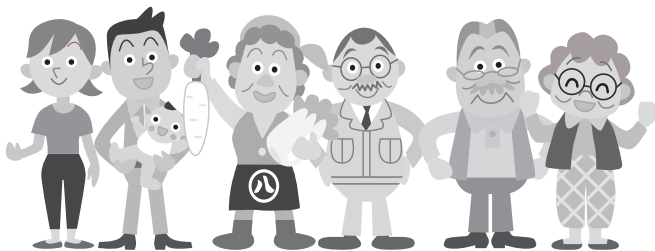
ます。また、市税収入も落ち込み、財政状況も悪化、高齢化の進行や子育ての問題、慢性的な交通渋滞の問題などさまざまな問題も抱えています。そうした問題に対して、地域主権が進む今、枚方で生まれ育った私がしがらみのない政治で、未来の世代に問題や負担を先送りせず、責任ある枚方の未来を創っていく責任があります。



みんなのチカラを合わせれば 厳しい財政状況でも 地域活性化は可能です。



×
大学生
NPO
社会起業家
定年退職者
など



行財政改革

14 億円以上の赤字

■2つの特別な借金

前回のリーフレットで枚方の経営は一般会計と特別会計を合わせて、-14 億円と記載しました。実は財政状況はもっと深刻です。枚方市は市税収入の落ち込みにより、特例の借金を 2 つしています。減収補てん債 (42 億 6580 万円)臨時財政対策債 (7 億 2430 万円)という特別な借金です。

■合計約 64 億円の赤字

14 億円の赤字にこの 2 つをあわせると約 64 億円。このようなことを続けていけば、いつまでも健全経営ができません。借金ばかりの自治体に生まれ育ち、住み続けていて明るい未来が描けるでしょうか?まだまだ行財政改革が必要です。民間では当たり前に行われている、人件費、事業の見直し、そして、一律に給与を削減するのではなく努力

した人、結果を出した人はそれだけ評価される仕組みづくりを進めます。

■民間企業並に経営改善を

私が勤めていた会社は売上がすごく伸びていましたが、売上が落ち、利益が出ず赤字になった時期もありました。当時、社内で色々議論をして、もっと効率化はできないか、無駄なことはないかと色々試行錯誤の末、無駄をなくし、結果、利益を生み出せる企業体質に生まれ変わりました。

経営状態が厳しくなれば、経営規模の大小を問わず民間企業では当たり前のようにそのようなことをやります。自治体も持続的に未来世代にも住民福祉を提供する経営体にするためには、行財政改革に取り組まなければなりません。

地域活性化

みんなのチカラで地域を活性

■厳しい状況での活性化

前述のとおり、財政状況は非常に厳しいです。それゆえ、しがらみのない立場で、「未来に責任」をもって、今までの無駄な事業は廃止、続けることは続ける、などの取捨選択が必要です。財政状況が厳しくても、地域の活性化は推進しなくてはならない重要課題であります。

■枚方の豊富な資源を活かす

私は厳しい財務状況でも可能な地域活性化を提案します。NPO、NGO や社会起業家など社会に貢献したいと思っている方々はたくさんいます。上記の方々以外にも、枚方にあるたくさんの大学の学生との連携。また、豊富な知識や経験がある定年退職された団塊世代の方々。枚方は、人口が大阪府下で 4 番目、面積は 9 番目を誇り、それらを

うまくミックスすることで地域活性化の可能性は無限に広がります。

■活動しやすい自治体に

しかし、社会起業家の方々と意見交換をすると、行政とのしがらみや利権により、実現できていないことがたくさんあります。そのように社会に貢献したいと思う方々にとって余計な障壁がない自治体を目指します。従来型の行政がお金を投入することによる活性化ではなく、環境を整えることによる活性化を目指します。

● 具体案

- 商店街の空き店舗
- 住宅街の空き家にて
- 寺子屋授業実施
- 病時保育実施
- 留学生誘致
- 公園での球技、スポーツ振興
- 耕作放棄地の有効活用
- 人材確保のための
- 地域デビュー相談窓口の設置